

# パワー浜松ロータリークラブ週報 2013年8月20日号

パワー浜松ロータリークラブ(2013-14年度会長:松本好司)

〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラアクトシティホテル浜松 4307 号室

Tel:053-452-0800 Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp

創立:2002年10月22日 認証伝達式:2003年4月29日 スポンサークラブ:浜松中RC

## 本年度テーマ:Rotary Mind、Rotary Wayを確認しよう

～心で感じて・考えて・活動しよう～

### 第498回例会8月20日(火)PM7:30~8:40オークラアクトシティホテル浜松4F平安の間

- 司会:鈴木和行、池田龍郎 ■点鐘:松本好司
- ロータリーソング:夢のみずうみ
- ゲスト:元チャーターメンバー 菅野学享様
- ビジター 浜名湖 RC 佐原功一郎様、中村哲也様、白井繁充様
- 議事 菅野学享様卓話「ミャンマーの現状」

### 出席報告

本日出席率  
65/79名  
82.28%  
前々回出席率  
91.00%

### 会長挨拶

今年度は課題として「場作り」をしようとスタートしました。前回の例会で「ロータリーの友」の一部を紹介いたしました。雑誌の中から課題を見つけ、例会に活かす活動をお願いしたいと思います。

8月号の「ロータリーの友」より甲府RCの記事をご紹介します。『ロータリー例会の食事では会話を楽しもう』より【食事をしながら耳学問で知識を増やす】知識は目からと思ったら大間違いである。むしろ耳学問のほうが学びの原点といえる。【例会の楽しみは異なる職業の人たちとの食事をしながらの会話】会話を楽しみながら食事をするという世界共通の食事文化をエンジョイし、ここにロータリーの会員維持のキーワードが隠されている、と述べられています。今年度国際奉仕 PJ メンバーはミャンマーをキーワードに奉仕の場作りに着手しようとしています。菅野さんのお話から会員皆様に関心を持っていただき国際奉仕の入口になり一緒に考えて考える機会にしてください。

例会中の意見交換の時間で、大いに盛り上げていただきたいと思います。願っています。

### 幹事報告

レターケースにてガバナー月信8月号を配布いたしましたのでご確認ください。

中田島清掃の受付を開始致しました。浜松中 RC と合同になります。ご家族、従業員の方の受付も一緒にいたしますのでご確認お願い致します。

休みにのご案内させていただきましたが、パワー浜松RCオリジナルソング練習会を開催致します。先日の例会で合唱指導いただいた相原先生に再度合唱指導をお願い致しました。練習を継続しIMで披露できればと考えております。

8月31日(土)19:30~はまホールの練習室で行います。ご参加お願い致します。

次回、8月27日の第499回例会は新世代奉仕PJ担当で、フランスより青少年交換学生マリーンさんのご紹介があります。ご出席お願い致します。



### 委員会報告

社会奉仕委員会・河村公隆

レターケースに9月14日土曜日に浜松中ロータリークラブと合同で中田島清掃を行います。9月3日までに出席連絡をお願いします。奮ってご参加してください。



### スマイル報告

松本好司・諸星圭吾

菅野様、本日は講演誠にありがとうございました。久しぶりに菅野さんのお話を聞く事ができ大変嬉しく思っております。今後のご活躍を期待しております。本日はありがとうございました。

伊藤麻衣

菅野様、本日はお忙しい中ありがとうございました。軍事政権と貧しい国位のイメージしかありませんでしたが、少しわかった様に思います。日本とミャンマーの橋渡しが少しでも出来ればと思います。ヤンゴンにロータリークラブができればいいですね。

小澤邦比呂・青山素久

8月6日に坂井光蔵パスト会長より、私と青山幹事の一年間の労を労う会を開いて頂きました。飲み放題、食べ放題で大変楽しい時間を過ごさせて頂きました。坂井パスト会長がこんなにも思いやりのある、気遣いのできる心根の優しい御方だとは今の今まで知りませんでした。来月も宜しくお願い致します。本当にありがとうございました。

また、菅野様、本日は卓話ありがとうございました。

村木則予

8月11日に入籍しました。二人の子供の親になりました。今後ともご指導の程宜しくお願い致します。

中野雄介・伊藤麻衣

私事ではございますが、この度8月8日に入籍致しました。何分にも至らぬ二人ですが、力を合わせて温かい家庭を築いていきたいと思っております。今後ともご指導ご交誼を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

浜名湖 RC 佐原功一郎様

卓話を楽しみに出席させて頂きました。

## 第498 回例会 8月20日(火) 卓話 菅野学享様 『ミャンマーの現状』

<国際奉仕プロジェクト伊藤麻衣さんから菅野様のご紹介>

本年度から留学生からの受け入れ、送り出しの担当が新世代奉仕プロジェクトの担当になりました。国際奉仕プロジェクトでも考えていたところ、浜名湖ロータリークラブでミャンマーでの学童での継続的なご支援を計画されていることを聞き、パワーでの活動の参考とさせていただくことにしました。今日はミャンマーに興味を持っていただくため、元チャーターメンバーで9年間クラブに在籍した菅野様です。経歴は、ヤマハ発動機で28年、海外事業開発でアメリカに7年間など多くの発展途上国にて数々の新規事業を立ち上げました。ヤマハ発動機に2001年まで勤務し、事業開発室長、アジア事業開発室長を担当、後半は中国の事業開発を担当。その後市内の商社で10年以上勤務し、南米中心に50か国以上を訪問。昨年ファミリーが経営する会社トレンディーグループに異動した。ミャンマーと日本を1、2か月毎に往復しています。プライベートでは4人のお子様を持ち、2名が外国籍の方と結婚し、大変グローバルな生活を送っておられます。



<菅野様のお話>

懐かしの人とお会いできて感激しております。早いもので2年経ちました。また、このような機会をいただき、ありがとうございます。主観で面白そうなものを集めて説明します。私とミャンマーのかかわり、浜松とミャンマーのかかわり、実際のビジネスで気が付いたこと、次に教育関係から依頼がありましたことを話します。ミャンマーは急に知られるようになった。日本の1.8倍の面積、7000万近い人口、ビルマ族70%。公用語はミャンマー語、天然ガスを輸出。200億円程度をタイに輸出。日本との貿易も増えている。国内産業は発達しつつある。



2005年長男の結婚によりタンさんご一家と親戚関係のスタートをした。ミャンマーの独立と浜松とのかかわり。独立するために革命軍となる30名の有志を密かに日本に連れてきた。そのリーダーが鈴木大佐。軍事訓練、独立の組織づくりのため浜松にいた。鈴木大佐のお墓が報恩時(浜松)に祭られている。アウンサン将軍よりいただいたものが、お寺に寄贈されている。館山寺のロープウェイ山頂に鈴木大佐と義勇軍と静岡戦死者を記念したモニュメントがある。強いきずなが浜松にある。

<ビジネスを通じた体験>

タンさん一家の経歴紹介。ミャンマー大学卒業。ミャンマー一番の大学。卒業後水産会会社に就職。その後、トヨタ通商の奨学金制度を活用し、名古屋大学に留学し、在学中の93年にトレンディー名古屋設立。学生中にミャンマーから中古車を1台購入したいという依頼があり、それを契機に中古車商売を始めるきっかけとなった。97年より軍事政権により、制限を受け苦しい時代があった。2011年になり、輸入が許可されヤンゴンへの輸出が可能となり、中古車・中古建設機械の輸出業をやっています。現在は、ミャンマーで工業用運搬機械、マリン事業、電力事業などを行っています。年末にはショールームを使ったハウジング事業、自動車アクセサリ事業を展開予定です。トレンディー名古屋の紹介。オフィス兼住宅の兼用。ミャンマー料理レストラン経営、昭和区にある。ミャンマーにはオフィス、レストラン、ショールームがある。ビジネスを通じて体験。ミャンマー訪問は2003年、05年、07年、08年。2010年にガソリンスタンドの民営化。これまで配給制。政府が中国と密着してオートバイ輸入。この年60万台。2011年6月総選挙で大統領制に、新議会制で民主化。経済開放。2012年やっインターネット回線が開通された。2013年正式にトレンディー名古屋に入社。ミャンマーはすでにインド、中国、タイ、ラオス、バングラデッシュとの国境を接している関係上複雑に大きく発展している。単純な商品、事業の導入では勝ち残れない。日本の製品には大きな期待がある。会社組織や社員の資質は著しく遅れている。レベルの低い英語を使う。中国からの暴力的な商品の乱入により、ビジネスの基準作り、インフラの改善が急務。日本政府、日本企業の期待が大きい。経済制裁が行われても貿易は盛ん。ミャンマーからは木材、農産物。インドから医薬品、タイから欧米の商品が流れて国境貿易が盛ん。韓国がすさまじい勢いがある。若い人は韓国のライフスタイルを植え付けられつつある。日本も早めに入っておくことが現地のとよ屋通商の社長の言葉である。ラストテーマは教員の社会環境改革。識字率は95.6%が高い。GDPは低いが、小学校がやっ義務教育化しつつある。しかし、貧困層やストリートチルドレン、孤児を受け入れる僧院学校があり、2004/5年で1255校もある。ストリートチルドレン、孤児を社内的な保護施設として、ヤンゴン内に3校あり、約1500人のが学校、施設にいる。通常発展途上国には物乞いが多いが、軍事政権下でも継続した体制があったことが分かる。0歳から7歳までの保護施設、保育・幼稚園がある。社会改善として、地方も村、町に至るまで僧侶、僧院からの住民への影響が非常に強い。日本と大きく違う点である。その点を考慮した社会改善が重要である。仏塔、橋なども新しくする。チョーご夫妻は40か所の仏塔、橋、地下水道、発電機を寄贈し、貧しい子供へ支援している。教育や社会環境改善に大切な発見として、一番大切なのは相手の社会環境を理解して継続することが何より大切である。また、現地社会に貢献するリーダーを育成することが大切。三つ目は現地の事業開発を共同で来ない、職業奉仕できる体制を作ることである。これはロータリーの基本精神である。



<浜松とヤンゴンの新たなつながり>

ミャンマーと浜松は大変かかわりのあると思います。ヤンゴン市と浜松市が姉妹都市と仕手関係を気づけたらと夢を持っています。また、将来ヤンゴン市にロータリークラブを創設するチームとしても皆さんは貢献できるのはと期待しています、本日はありがとうございました。

<質疑応答>

Q:ミャンマーの盛んなスポーツは?

A:1960年ころはいい4年連続サッカー。アジアチャンピオンになったくらいサッカーである。水泳は泳げない人が多い。

Q:鈴木大佐について、ラジオで聞いたことがあるが、ミャンマーの教科書に鈴木大佐は載っているのか?

A:アウンサンスーチー賞を受賞し、想像以上に有名である。調べてみる。